

注意事項

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【タイトル】

ラブライブ〜皆を支える架け橋〜

【作者名】

森のアンドウ

【あらすじ】

高校三年生の凰沢拓真が高坂穂乃果、園田海未、南ことりの三人の幼なじみの頼みを聞き今まで全く知らなかったスクールアイドルに関わっていくことになる、これに関わったとき12人（仮）のヒロインのフラグを立ち上げついに争奪戦がはじまるという物語

ラブライブ〜夢のような物語〜のリメイクみたいなやつです

結局そろっんかい！

拓真「ふいゝやっとなつたぜ…」

俺、鳳沢拓真は学校から下校中である
時間は7時

なぜこんな遅いのかって？

小テストの結果が散々でいままで補修つけてたんだよ！
全く面倒すぎるぜ…

こんな感じでだらだら帰っている時

穂乃果「やっときた！待ちくたびれたよゝたっくん」

1人の女の子が拓真の元に向かってきた

この子は高坂穂乃果、俺の一つ年下の幼なじみだ
天真爛漫、だがやるときはやるという真っ直ぐなやつだ
すぐ突っ走るためこいつにはいつも二人のストッパーがついてい
るんだが…今日は一緒にやないみたいだ

というか…いままでまっていたのか？

拓真「穂乃果、待ちくたびれた」ってこんな時間まで俺を待ってたっ
てことか？」

穂乃果「うん、そうだよ！、たっくんに話したいことがあってね」

話したいこと？なんだ、相談か？

穂乃果にしては珍しい…

穂乃果「あ、今穂乃果のこと馬鹿にしたでしょ」プープ（、
q）

穂乃果が頬を膨らませて言う
なにいつてんだ…そんなわけ

拓真「だって馬鹿じゃん（笑）」

あるだろ！

穂乃果「たつくん、いじわるだよ」（、T T、）

しょぼーんといじける穂乃果

全く可愛いなこいつは、だからこそいじりがいがある
でもこいつは俺の言うことは昔から全部しんじるからなw

拓真「冗談だって穂乃果」

穂乃果「冗談…本当？」

拓真「本当、本当、だからそんな落ち込むなよ…お前は元気な方が
可愛いんだからよ！」

穂乃果「たつくんはずるいよ…いつもそつやって私や海未ちゃんや
ことりちゃんをドキドキさせる…」プッブッ

何かいつてるが俺には聞こえない
独りごとか？

ヒュッ

風がふきまだ寒さの残る季節の今は

穂乃果「ふえっさ、寒いよたっくん!!」

俺の腕に抱き着く穂乃果

確かに穂乃果の言う通り寒い

だからって俺にひつつくなよ!二つの柔らかいものがあたってる
だろ／／／

拓真「家に来るか?温かい飲み物でもだすから暖まってから話を
聞くよ」

そっいうと穂乃果は笑顔で

穂乃果「だからたっくんは大好き」

今度は腕ではなく胴体に抱き着いてきた

全くこいつはいつもこうだからまあ慣れてきたからいいけどやっ
ぱり照れる／／／

二人は拓真の部屋があるマンションに入ってしまった

拓真「穂乃果ー、コーヒーとミルクティーとココアでどれが飲みた

い？」

俺はキッチンにて牛乳を鍋で温めながら穂乃果に聞いた

穂乃果「えっとね、ココアがいいな」

拓真「OK」

二人分のコップに片方はココアを片方はコーヒーと砂糖をいれ牛乳が温まるまで待つ

目の前のリビングでは

穂乃果「あははは、おもしろい（笑）」

バラエティー番組をみて爆笑していた…

まあこれもいつものことだな…

拓真「おっと！」

牛乳がいい感じに沸騰したので火を消しその牛乳を2つのコップに半分づつ注ぐ、沸騰した牛乳だけいれると熱くてすぐ飲めないのので残り半分は冷たい牛乳をいれ温かくけど熱くない温度にしお盆のせ、リビングに運ぶ

拓真「ほれ、出来たぞ」

穂乃果「ありがとう」

穂乃果は受け取り早速一口

穂乃果「温かい〜そして美味しい」

拓真「それはよかった、んで話って？」

ここで穂乃果は少し真剣な顔つきになる
やっぱりガチなことか

穂乃果「実は『ピンポン』ふえ？」

チャイムがなったようだ
タイミングわるいな

拓真「ちょっと待ってろ」

俺はリビングの壁についてるモニターのやつをボタンを押し応答
した

勿論画面ひとは写る

拓真「はい…ってお前らか」

モニターに写ったのは

海未『夜分遅くに申し訳ありません拓真、少し時間をいただけない
でしょうか？』

ことり『ことりもいいかなあ〜』

二人の幼なじみだった…

結局そろっんかい！